

助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人セイフティライフ

代表者・役職名 氏名 理事 梅山保吉

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ひとり親世帯支援活動事業

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

平成28年オゼこども食堂を開設し、令和元年6月まで合わせて146回、3300人以上の利用がありました。令和2年4月より、事業をひとり親家庭フードバンクに本格変更しました。現在はひとり親家庭・貧困家庭にピンポイントで届くようにと、月1回1家庭8,000円前後の食材支援をするフードパントリー事業を継続しています。フードパントリーでは食材の配布と併せて、生活状況の見守りを行っています。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

【結果】

2022年4月～2023年3月の間に、計12回のフードパントリーを開催しました。事業全体で登録ひとり親家庭169世帯(大人169人、子ども388人)の方に、米・卵・肉・魚・パン・ケーキなどバランスの良い食材を支援できました。

【成果】

昨年からの光熱費や食材の値上がりに、当フードパントリーに登録世帯にも大きな打撃となりました。ですが真如苑こども食堂支援助成金のお力添えもあり、この様な情勢においても配布食材の質を落とさずに、お米や卵、お肉お魚やお惣菜などバランス良く支援可能となりました。また近隣に開店した大型会員制スーパーの人気のパンやお惣菜等、子どもさん達の喜ぶ食材の支援ができ大変好評でした。

【効果】

成果と同じ内容になりますが、物価高や光熱費の値上がりにより、低所得者の多いひとり親世帯は生活費のやり繰りに大変苦労しています。その様な状況下でも、真如苑こども食堂支援助成金により、バランス良く美味しい食材を支援でき、登録家庭からは喜びの声を頂きました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

活動を行う中での現状として、洋服はかなり着古した物を着ているお子さんや、冬でも裸足でフードバンクに来ているお子さんもいます。少しお話してみると、内気なお子さんも多く、コミュニケーションの難しさを感じます。バランスの良い食事を取ることは子どもの成長に大きく影響します。これらの状況下にいる子ども達を一人でも多く支援出来る様、食材の質を上げ、量についても増やしてあげて行きたいと考えています。更に、今後は感染状況に配慮しつつ、フードパントリーと並行して会食型こども食堂の再開を企画しています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

